

ザ・ジャーナル!!

Vol.2 No.2

夏号

“やさしき便り～岡山医療センターの今”

URL <http://www.hosp.go.jp/~okayama/> E-mail info@okayama3.hosp.go.jp

CONTENTS

This is our hospital ●センターTOPICS ——— 2～3

ジャストナウ ●整形外科 ——— 4

●禁煙運動この1年 ——— 5

●淳ちゃんのワンポイント手話 ——— 5

シリーズ ●岡山医療センター物語 第6話「心に残る看護のはじまり～一年間で一番心に残ったこと～」 ——— 6～7

●市民公開講座のお知らせ ——— 7

●病院活動案内 ——— 8



写真 | 防火避難訓練 (2007.7.11)

岡山医療センターの理念

一人にやさしい病院— をめざして
—Human Friendly Hospital—



- 1: 患者さまにやさしい病院を目指します
- 2: 病院で働く人にやさしい病院を目指します
- 3: 地域の人にやさしい病院を目指します

This is our

センターTOPICS



認定証が発行されました 事務部長 馬場 洋一

前号で、病院機能評価の受審の状況について報告させていただきましたが、このたび、日本医療機能評価機構から認定基準を達成しているとして、4月23日付で認定証が発行されました。当院においては既に5年前に認定されており、更新されたこととなります。今後は、再び5年後の審査も視野に入れ、何よりも「人にやさしい病院を目指して」医療の質の維持・向上を目的とした病院機能評価月間（仮称）を制定し、自己評価によるチェック等を実施していきたいと考えています。



撮影ご協力 ありがとうございました

前テレビせとうち報道部長 羽田 浩（現山陽新聞社メディア報道部長）

岡山医療センターを舞台に、テレビせとうち（TSC）が制作したドキュメンタリー番組「岡山発・小児医療最前線 難病の子どもたちを救え！ ～新人看護師が見た命の現場～」が6月、テレビ東京系列の2006年度「TXN番組大賞」優秀賞を受賞しました。患者ご本人に加え、ご家族、青山院長をはじめとする医療スタッフの皆さまのご協力のたまもので、心から感謝しています。

プロデューサーは、当時TSCに出向していた私が務めました。担当の田淵俊彦ディレクターは、昨年12月から今年2月にかけて、カメラマンとともにセンターに泊まり込ませていただき、医療現場の取り組みや命の大切さをじっくり見つめることができました。



写真は番組の一場面です

番組は3月17日にテレビ東京系列で全国放送され、好評を博しました。ナレーターは女優の西田ひかるさんが務めました。

屋外トイレ・身障者専用駐車場屋根設置！ 経営企画室 植田 誠司



かねてより患者様からの要望が多かった屋外トイレが7月末に竣工しました。場所は正面玄関脇の身障者専用駐車場横です。身障者用の多目的トイレ1基と、一般男女用各1基となっています。これと並行して、隣接する身障者専用駐車場に屋根を設置しましたので、濡れずに玄関まで移動していただくことが可能となりました。これからの管理等が大変ですが、皆様に、気持ちよく、きれいに使っていただければと思います。

h o s p i t a l !

アコースティックギターコンサート

ボランティア室 沖田 哲美(管理課長)



入梅間もない6月21日(木)、恒例の院内コンサートが2階外来ホールで開催されました。本年第2回目の今回は、「アコースティックギターのサウンドとギター伴奏で広がる甘い歌声」と題して、岡山市、倉敷市を拠点に活躍中の高橋清文さんをお招きしました。生のギター演奏を聴く機会は少なく、みんな興味津津といったところでした。

1時間という短い時間でしたが、暖かくホールを満たす高橋さんのギターの音色や歌声は、患者様やご家族、職員の心の慈雨となり、十分に癒されたのではないかと考えています。次回、秋の開催をお楽しみに!



エントランス喫茶オープン!

ドールコーヒーショップ 安藤 明

ドールコーヒーショップは『一杯のコーヒーを通じてお客様に安らぎと活力を提供する』という経営理念のもと、全国展開しているセルフサービス式のコーヒーショップチェーンです。この度、岡山医療センターの正面玄関ホールに出店させていただきました。岡山県内においてはイオン倉敷ショッピングセンター店、川崎医科大学附属病院店、岡山表町2丁目店に続く4番目の出店となります。

今後、当店が患者様・病院関係者様の憩いの場となるよう努力してまいります。どうぞお気軽にご利用ください。店長・スタッフ一同、心よりお待ちしております。



『レストランひまわり』が明るくなってリニューアルオープン!

店長 苅田 竜樹

レストランひまわりが、5月のゴールデンウィークに「それぞれ(職員、一般)のお客様に満足いただける安らぎの空間提供」をコンセプトにリニューアルを実施しました。

職員と一般の方の区分けを明確にし食堂全体を明るくすることにより、どちらからも利用しやすくなったと高い評価をいただいております。また、パスタやビネガードリンクの新メニューも「とてもおいしい」とのお声を頂戴しています。外には植栽も配置してくつろげる空間となりました。是非お立ち寄りください。



現代新事情

わが病院の“光るワザ”

整形外科特集



ジャスト ナウ

J U N S O T W !



■整形外科 塩田 直史

整形外科は四肢運動器疾患の治療を行っております。治療範囲は非常に広く脊髄・末梢神経までの神経疾患、関節外科(人工関節や関節鏡手術、靭帯再建)、外傷(骨折や筋腱・靭帯損傷など急性外傷、また多発外傷)外科学を中心に治療を行っております。当科ではその年間約1600件の手術の守備範囲を、中原 進之介診療部長を中心とした脊椎・脊髄外科と佐藤 徹医長を中心とした関節・外傷外科に分けて、総勢9名で担当しております。それぞれの最近のトピックについて紹介します。



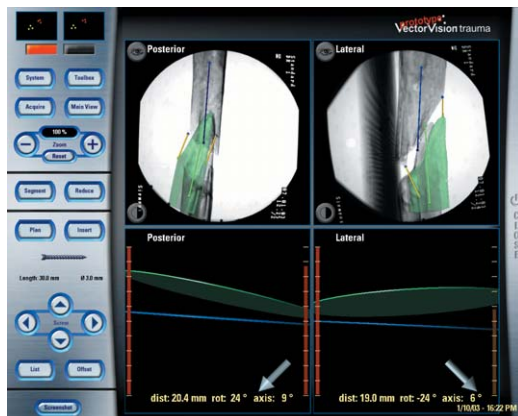
脊椎・脊髄外科医師の立場から

以前より中原診療部長を中心に中四国の脊椎・脊髄治療の中心として活動してきました。最近では年間手術件数はもとより、内視鏡下腰椎椎間板ヘルニア摘出術(MED)や最小侵襲腰椎前方固定術(mini ALIF)、内視鏡下胸椎固定術(VATS)などの最先端治療においても全国トップレベルであります。さらには術中CTを使用したナビゲ

ーション手術など次世代の手術を取り入れるなど、わが国の脊椎・脊髄治療の中心として活動しています。

関節・外傷外科の立場から

まず人工関節手術においては、人工膝関節置換術が年間約100例、人工股関節置換術約80例であり、中には再置換術等の難易度の高いものも多く、質・量ともに岡山県トップクラスであり、益々増加傾向です。外傷外科では、骨盤骨折手術においては難易度が高い症例ほど近隣の病院より当院に紹介されている状況です。また四肢骨折手術においては、最先端治療の流れである最小侵襲手技を用いた内固定や、骨折におけるナビゲーション手術の開発等を行っております。さらには、大腿骨頸部骨折において近隣病院・市内基幹病院と一体となり地域連携パスを使用した、急性期・回復期で継ぎ目のない連携治療を行えるよう準備をすすめております。



禁煙運動この1年…たかが禁煙されど禁煙

環境整備室 赤尾 泉 (臨床検査科)

当院では、医師を始め色々な部署より毎日4名の職員が交代で、「禁煙パトロール」の黄色のタスキをかけ、雨の日も風の日も、敷地内の吸殻拾いをしながらパトロールをしています。職員一丸となって、一年間「黙々とモク拾い」を続けた結果、病院建物内での吸殻はなくなりましたが、建物外での吸殻が一向に減らないため、さらに敷地内全面禁煙をアピールする目的として「禁煙強化月間」を設けました。ビラや院内テレビによる敷地内全面禁煙の訴え、玄関正面に大垂れ幕の設置を行いました。これだけ頑張っても、いまだに、駐車場や救急出入り口などでは吸殻が落ちていることは、残念ではありません。なぜ、『敷地内禁煙』の看板の前で、「堂々と(?)」喫煙をする方が後を絶たないのか。もちろん、「喫煙は個人の自由」かもしれませんが、あえて、皆さんのモラルに訴えたいのです!タバコを吸うのはやめてください!! せめて、吸殻をポイ捨てするのはやめてください!!!

このような中、今回「禁煙強化月間」を終えた時点で職員にアンケートを行ったところ、「禁煙パトロールは

効果的でこれからも行った方がいい」という回答が多く、私達(環境整備室のスタッフ)もほっと胸をなでおろしました。

「たかが禁煙、されど禁煙」。これからも吸殻ゼロを目指し、効果的な禁煙パトロールの実施や強化月間でのアピールを行い、禁煙に関するモラル啓発を、職員全員で、愚直に推進しつづけていきたいと思ひます。みなさま、どうかご理解とご協力をお願いいたします。



「黙々とモク拾い」



淳ちゃんのワンポイント手話

手話にチャレンジ!

病院で役立つ一口手話

熱を測ります。体温計を脇の下にはさんでください。



熱

親指と人差指を閉じた右手を左脇に当て、人差指を上にはねあげて上に開く



測る

右手の人差指と中指を軽く折り曲げて、目の前を左右に往復させる



脇の下に体温計をはさむ



お願い
右手で拝む

血圧を測ります。
腕を出してください。



血圧

左腕の上で、右手を上下させる



測る

右手の人差指と中指を軽く折り曲げて、目の前を左右に往復させる



腕を出す



お願い
右手で拝む

大きく息を吸ったり吐いたりしてください。



大きく息を吸う

右手2指の指先を鼻に近づける



大きく息を吐く

右手2指の指先を鼻から遠ざける



お願い
右手で拝む

シリーズ 岡山医療センター物語 第6話

心に残る看護のはじまり ～一年間で一番心に残ったこと～

看護師 中西 ちえみ

私は平成18年度新規採用で岡山医療センターに入職しました。一年間の看護を通して、一番心に残っているのは、甲状腺癌の再発で喉頭全摘をされたY氏との関わりです。

Y氏はコーヒーショップのオーナーで、少年野球の監督をされていました。手術で喉頭全摘をすることが決まりましたが、手術によって声が出なくなることに対し、術前から大きな不安を抱えておられました。

Y氏が手術をされたのは、5月*日で、私は病棟に配属されて1ヶ月の頃でした。仕事にも全く慣れておらず、部屋周りも時間内にできない頃でした。また、夜勤業務が始まった頃でもありました。

Y氏の手術前日、私は準夜勤務でした。Y氏が「明日の手術の時もあなたはいますか？眠れません」と言われていたのを覚えています。術前に大きな不安もあったと思います。また大きな手術でもあったので、Y氏は術後数日間、集中治療室におられました。

私にとっても、Y氏にとっても、初めての喉頭全摘という大きな手術で、永久気管孔もこの時初めて見ました。そして、意思疎通の図りにくさという壁に、ぶちあたりました。

初めての大きな手術だったので、術後の管理をしっかりしなくては、と勉強して看護に臨んだけれど、Y氏との関わりはいつもうまくいきませんでした。そして、きっかけは、吸引でした。

「気管孔からの吸引は痰がでるまで十分に深く頻回に行い感染と気道閉塞を予防が肝要」と本にあり、Y氏から吸引コールがあったので、一生懸命行くと、吸引が咳を誘発して、非常に苦しい思いをさせました。筆談用の紙に「あなたが一番下手くそ」と書かれま



した。

全く心を開こうとされず、私も「部屋に行くのが嫌だな」、と思いつつも、笑顔で接し、足りない技術は声かけと、まだ技術不足で申し訳ないという思いを伝えても、訪室する毎に、「優しい言葉がけは要らないから、態度で示してください」「客商売というものは…」と用紙に達筆な字で書かれ、理解できないと、バーンと手をたたきつけて、そっぽを向いてしまわれました。そうしているうちに、他の部屋から、ナースコールが鳴りました。とにかく、部屋回りができない頃だったので、他の病室も気になって対応をしていました。それでも「私には、あなた達ナースしか頼る人がいないのです」と書かれ、この方のお気持ちに応えなければならぬ、という思いが常にありました。

Y氏は、点滴による中心静脈栄養から経管栄養に栄養療法が変わっていきました。栄養剤に落ちムラがあり、速度が少しでも遅くなると、ナースコールを押されました。ご自分で「点滴ノイローゼ」といわれ、イリゲーターから滴下する一滴一滴をずっと眺めておられました。ナースコールが鳴れば、一秒後には部屋に行かなければ「ナースコールの対応が遅い」といわれ、先輩にも「あの看護師はだめだ」といわれました。私は、ナースコールノイローゼになっていました。

そんな日々の中、当時実習に来ていた後輩学生達が、Y氏と仲良くしているのを見ました。患者様とじっくり関わる学生がうらやましくなりました。「自分もついこの間までは学生だったのに」、という思いにかられました。

このY氏をなんと笑顔にしたい、このつらい訪室を解消したい、と思い、部屋回りの仕方を試行錯誤しました。Y氏の部屋ばかりにいると、結局他の部屋回りが遅くなって、ナースコールの対応も遅くなってしまふので、遅くなる時は、前もって声かけをし、何分間はこの部屋にいると決めたりしながら、日々関わっていきました。

次第にY氏は、経管栄養から経口摂取へと、変わっ



新人入職者研修

DOCUMENT



新人6ヵ月研修(救急患者の対応)

ていき、状態も落ち着いて、退院の日が近くなりました。私の辛い日々も終わるのか、と思っていたら、Y氏から、Y氏のお店の名刺を頂きました。「いつかお店において」という意味でした。そして、Y氏は一ヶ月後再び、私のいる病棟に入院されましたが、その

時は、すごく頼って下さって「この病棟がいい」と言って下さいました。

Y氏が辛い時、私も辛かった。それは私が自分の業務を充分行えなかったからでした。Y氏からの言葉に傷ついて自分を守ることばかりに心がとらわれ、Y氏の辛さがどこにあるのかを、見失っていました。Y氏に対し一生懸命関わったことをY氏が認めてくださった証として、退院時に名刺をいただいたような気がしました。Y氏との関わりが一番心に残っていることであり、これからも今の気持ちを持ちつづけたいと思います。 註:写真は本文と関係はありません。

岡山生活習慣病市民公開講座

平成19年9月22日(土)午後1時～4時

(受付開始12時30分)

午後1時 開会の挨拶 青山 興司 (国立病院機構岡山医療センター病院長)
総合司会 真邊 泰宏 (国立病院機構岡山医療センター神経内科医長)

第1部(1:05-2:20)

1)脳梗塞の診断と最新治療

真邊 泰宏 (岡山医療センター神経内科医長)

2)脳卒中外科的治療の最前線

久山 秀幸 (岡山医療センター脳神経外科医長)
質疑応答・休憩(2:20-2:30)

第2部(2:30-4:00)

3)脂質異常・糖尿病の最新治療

利根 淳仁 (岡山医療センター代謝内科医師)

4)高血圧症・腎臓病の最新治療

太田 康介 (岡山医療センター腎臓内科医長)

5)狭心症・心筋梗塞の最新治療

宗政 充 (岡山医療センター循環器科医師)
質疑応答・閉会(4:00)

会場:岡山国際交流センター

(岡山市奉還町2-2-1、岡山駅西口前)

定員:200名 参加料:無料

主催:国立病院機構岡山医療センター

後援:岡山県、岡山市、岡山県医師会、岡山市医師会、
御津医師会、NHK岡山放送局、山陽新聞社、RSK山陽放送、
OHK岡山放送、oniビジョン、おかやま・あゆみの会

[病院活動案内]

地域医療研修室 セミナー・講演会(9月～11月) 会場/当院4階大研修室 時間/19:30～20:30

日 程	種 別	演 題/内 容	演 者
9月18日(火)	初期治療セミナー	口腔ケア	当院感染管理認定看護師 形山 優子 当院歯科衛生士 松尾 敬子 当院言語療法士 阿部 直美
10月16日(火)	初期治療セミナー	排尿障害	当院泌尿器科医師 新 良治
11月20日(火)	初期治療セミナー	右下腹部痛 -よくある病気・珍しい病気-	当院外科医長 野村 修一

(開催時間は9月18日は19:00～20:30 他は19:30～20:30です)

●第12回岡山小児医療研究会●

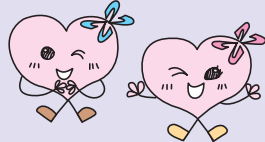
6B病棟 看護師長 宗時 千枝美



平成19年6月3日(日)第12回岡山小児医療研究会が岡山国際交流センターにおいて開催されました。本会は、故山内逸郎先生の奥様のご尽力により始められた「子供にやさしい医療のための基金(山内逸郎賞)」の設立(平成7年)を記念して平成8年に発足しました。その後、小児医療に携わる幅広い方々(医師、看護師、保健師、助産師、その他の医療・教育関係者)の参加を得て開催されています。本年度は16題の一般演題の応募、約100名参加者がありました。特別講演は、国立看護大学校成育看護学教授の駒松仁子先生をお招きし、「小児慢性疾患のキャリアオーバーと成育医療、そして成育看護」と題してご講演をいただきました。本年度「山内逸郎賞」は3名の方に授与されました。その中で、当院6A病棟看護師長、有道順子さんが、「母乳育児の推進・継続への貢献」に対して本賞を受賞されたことは特筆に値します。会の準備・運営には、当院小児科・小児外科の先生をはじめ多数の方々にご協力をいただきました。有難うございました。

●山内逸郎賞を受賞して●

6A病棟 看護師長 有道 順子



このたび山内逸郎賞を受賞できたことを心より感謝いたします。1979年に故山内先生と出会い、母乳育児の素晴らしさに感動し、助産師としてその素晴らしさを多くのお母さん達に伝えてきました。今後も地域へ広がる母乳育児をめざして、スタッフと共にお母さんと赤ちゃんにやさしいケアを提供していきます。また総合周産期母子医療センターとして、母子搬送によるハイリスク妊産婦、また新生児の救命看護にNICUとの連携を強化し、今後も邁進していきたいと思っております。



編集者から ●あとかぎ

長かった梅雨も終わり、ようやく夏本番です。当院は春から1階レストランの改装、エントランスにオープンしたドトールコーヒー、病院機能評価合格とうれしい話題が続いています。また、岡山サッカー界で注目のファジアーノ岡山もプロ化を目指した今季は只今連勝街道を大爆進中です。昨年果たせなかったJFL(日本フットボールリーグ)昇格への期待が大きく高

まっています。私達も各専門分野のスペシャリストとしての“プロ意識”を忘れずに引き続き「人にやさしい病院を目指して」更なる良質な医療の提供に努めて参りたいと思っております。今後も皆様方に愛される広報誌作りを心がけていきますのでよろしくお願いたします。

(藤田 記)

ザ・ジャーナル!!

第2巻 第2号

平成19年8月1日発行(年4回発行)
編集責任者 大森信彦
独立行政法人 国立病院機構
岡山医療センター 地域医療連携室
広報誌編集チーム
〒701-1192 岡山市田益1711-1
Tel.086-294-9911 Fax.086-294-9255
印刷:山陽印刷株式会社